

(機能説明書)

Onnet 統合業務シリーズ

「Office365 コネクター」機能説明書

【凡例】

(章立表記)

■ (部) -★ (章) -● (節) -[] (項)

(画面オブジェクト表記)

[]画面項目名

<>ボタン

¥¥リンク

%%選択

「」画面名

() 上記以外

2018年07月01日初版

更新記録

・2018.07.01 初版

目次

■ 概要	4
■ 用語の定義	4
■ Office365 を利用するメリット	4
■ Office365 コネクターサービス機能説明	5
★ SharePoint 構築サービス	5
★ SharePoint 連携ツール	5
● SharePoint 接続確認機能	5
● SharePoint-サーバ間データ送受信機能 (リスト)	5
● SharePoint-サーバ間データ送受信機能 (文書・データ)	6
★ DB 操作ツール	6
● SQLS	6
● TEXT 2 DB	6
★ JOB 管理ツール	6
● 「Onnet Job Manager」 (以下、OJM という)	6
■ 活用事例	7
★ 「オンネット統合業」から出力された売上実績表を SharePoint に配布する。	7
★ SharePoint 上のリスト (表) に登録した、入在庫データおよび棚卸しデータを「オンネット在庫」に接続し、処理する。	7
★ SharePoint 上の文書フォルダに登録したエクセル表 (例えば、作業工数データ) を「オンネット工数」に登録する。	7
★ 各種情報のスマホ連動、グラフ化	7

■ 概要

Office365 コネクタとは、「オンネット統合業務」のデータベース（以下、DB）、出力データ、登録用データを中心として、データを Office365 内の SharePoint、スマホ間で双方向連携するためのプログラム群（ツール）、および導入サービスの総称です。

これらの機能を利用すれば、ローカル PC で作成した、「オンネット統合業務」に直接関係しない Office 関連文書（エクセル、ワードなど）も同様に連携可能となります。そして、これらの情報が、世界中どこからでも利用可能になるのです。

本ツールの利用は、「何のデータを連携するか」の整理が前提となります。従って、事前の導入サービスを受けることが必要になります。

■ 用語の定義

データ種類	説明
DB	「オンネット統合業務」で利用している DB 情報。
出力データ	「オンネット統合業務」から出力したデータ（エクセル、CSV など）や帳票（PDF）。
登録用データ	「オンネット統合業務」が利用するデータ。
Office365	マイクロソフト社が提供するクラウドサービス。
SharePoint	Office365 内のサービスの中に含まれる情報共有環境。あらゆる文書を格納、共有でき、その内容を全文検索できる。
PowerApps	マイクロソフト社が提供するサービスでスマホなど移動端末向けプログラムの作成支援ツール。「オンネット統合業務」データや SharePoint データと連携できる。
PowerBI	マイクロソフト社が提供するデータ分析ツール。本書とは直接関係しないが、「オンネット統合業務」データ、SharePoint データが活用可能。

■ Office365 を利用するメリット

Office365 は、一般には、エクセル、ワードなどのオンライン販売として捉えられていますが、実際には、SharePoint をはじめとする、多くのソフトウェアで構成されています。

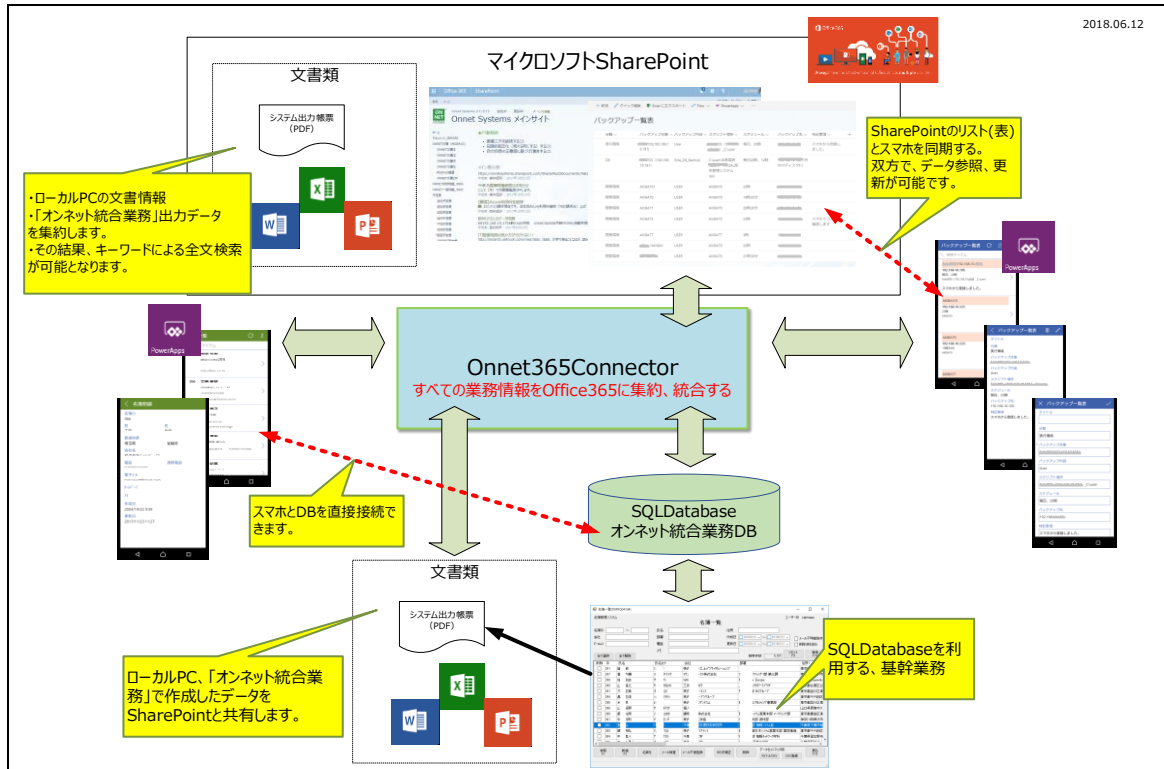
その中で、弊社が着目しているのは、SharePoint による情報共有基盤とセキュリティを確保するための高度な認証基盤（ログイン機能）を持っていることです。認証基盤では、必要により、多要素認証（有償）が使えたり、利用制限などが集中的に行えたりすることで、安全性が確保できるのです。

無断複製、転用を固く禁じます。

SharePoint による情報共有基盤については、本書で詳しく述べます。

■ Office365 コネクターサービス機能説明

全体構成図は、次の通りです。



ここは、各種情報が、「オンネット統合業務」、Office365(SharePoint)、スマホ間で連動していることを示しています。

★SharePoint 構築サービス

本ツールを使う前提となる、情報共有空間を設計、設定するサービスです。社内で利用するデータをSharePointに集中させることで、場所を超えた情報共有が達成できます。

★SharePoint 連携ツール

●SharePoint 接続確認機能

「ログイン認証の確認とそこで扱っているリストと項目名の一覧表示」を行う機能です。このツールを使い、アクセス情報の確認を行います。

●SharePoint-サーバ間データ送受信機能 (リスト)

前項の「●SharePoint 接続確認機能」により明確になった、認証、リスト名、項目名を元にデータを双方向に送受信する機能を提供します。

無断複製、転用を固く禁じます。

- SharePoint-サーバ間データ送受信機能（文書・データ）

エクセル、ワード、CSV、PDF などの情報を SharePoint 文書フォルダを起点にサーバ間で送受信します

- ★DB 操作ツール

これらのツールは、Office365 コネクターとは別に開発されたものですが、組み合わせて利用することで非常に大きなシステム開発生産性を高めます。Office365 コネクター導入時に、一緒に提供するものです。上場企業のシステム導入実績もあり非常に有用性があります。

- SQLS

サーバ内の DB 情報を取り出し、Office365 コネクターと連携するツールです。連携情報は CSV データとなります。

DB 操作言語である SQL を記述し、連続化させることで、手続き言語によるプログラムを不要としています。DB を操作した結果を CSV 出力することで、Office365 コネクターと接続します。

- TEXT 2 DB

SharePoint から連携された CSV を DB に格納するためのツールです。CSV データを準備すれば、DB 登録が行えます。SharePoint、スマホからのデータを「オンネット統合業務」の DB に登録できます。エラーがあれば、メールなどで通知します。

- ★JOB 管理ツール

- 「Onnet Job Manager」（以下、OJM という）

前項で説明しました「★SharePoint 連携ツール」、「★DB 操作ツール」は、バッチ処理となります。従って定期実行が必要になります（そうでなければ、手動実行になってしまいます）。実行タイミングは、「日付、曜日、時刻」、「ファイル更新のタイミング」となります。

■ 活用事例

要は、PC で扱える情報（エクセル、ワードなどの文書データ、CSV やテキストなどのデータ）はすべて、サーバ、Office365（SharePoint）、スマホ間で世界中どこに居ても共有できるということです。

そのことを分かり易くイメージ出来るよう、具体的に事例説明します。

★「オンネット統合業」から出力された売上実績表を SharePoint に配布する。

「オンネット統合業務」からは、日次、月次、随時などで出力データが定期的に作られます。

これまでは、これらのデータは、「①印刷して、②配布する」、「①メール添付して、②配送する」となっていました。少し、気が利いて、「特定サーバに格納する」とかになっていたかと思います。

それに対して、例えば、月次で出力される、月別売上実績表は、「オンネット統合業務」で出力し、SharePoint 上の階層化（例えば、月別に）されたフォルダに自動格納します。そうすれば、利用者は、いつもそのフォルダを見れば売上実績を調べることが可能になります。また、複製を一か所で管理していますので、個別配布に比べ安全です。

★SharePoint 上のリスト（表）に登録した、入在庫データおよび棚卸しデータを「オンネット在庫」に接続し、処理する。

複雑な、在庫管理でなければ、SharePoint のリストに入在庫情報、棚卸し情報を登録すれば在庫管理が可能になります。登録された入在庫、棚卸し情報を Office365 コネクターが自動的に「オンネット在庫」に登録してくれます。

★SharePoint 上の文書フォルダに登録したエクセル表（例えば、作業工数データ）を「オンネット工数」に登録する。

予め、構造を定めたエクセル表（勤務データ、作業日報）に実績など記入し、SharePoint に登録すれば、Office365 コネクターが自動的にエクセル表を読み取り、その内容を解析（解析プログラムは個別作成）して「オンネット工数」に勤怠データ、工数データを登録することが可能になります。

★各種情報のスマホ連動、グラフ化

これまでに挙げた情報は、PowerApps を使い、すべてスマホに表示することが可能になります。また、スマホからデータ登録が可能になります。加えて、共有データは、PowerBI を用いて、グラフ化できます。

以上

無断複製、転用を固く禁じます。